

速報學術雜誌

醫學と生物學

監修

稻田 龍吉(醫學) 柴田 桂太(植物學) 林 春雄(醫學)

森島 庫太(醫學) 谷津 直秀(動物學)

第1卷

昭和17年

醫學生物學速報會

第 1 卷 目 次

第 1 號 昭和 17 年 1 月 5 日

1. 補體結合反應における補體の態度 緒方富雄・馬杉菊三……(血清學) 1
2. 人の輸精管上皮に於ける注目すべき核像に就て
小川鼎三・大久保清倫……(組織學) 5
3. ヒルムシロ屬植物の染色體數 原田市太郎……(核學) 9
4. ビタミン C 及び P の發熱狀態に及ぼす影響に關する實驗的研究
田坂定孝……(內科學) 13
5. 倍數性細胞の成立並に所謂不明小體 湯淺明……(細胞學) 17
6. 人尿培養基の研究 里見三男……(微生物學) 20
7. 急激な運動が唾液水素イオン濃度と血液アルカリ豫備の相關性
に及ぼす影響に就て 渡邊巖・豐島時太郎……(生化學: 運動醫學) 22
8. 所謂纖維腫性齒齦肥大症の症例補遺と本症治療に對する私共の見解
渡邊巖・矢田晴次……(齒口顎科學: 病理學) 26
9. キモリの人工排卵を利用せる早期妊娠診斷
中村定八……(動物學: 產科學: 畜產學) 30
10. Butter Yellow 投與と C_3H 系雌廿日鼠の乳癌發生
森上修造……(病理學) 35
11. 人口増殖力の地域的差異と若干の文化的要因との關係
館稔……(人口問題) 38
12. 組織内磷酸酵素によるコカルボキシラーゼの分解に就て
藤田秋治・土肥圭三郎・河内省一……(生化學) 42
13. ビタミン B_1 の比色的定量法に就て(動物組織定量の場合の簡便
法とキシロール移行性色素ある動植物組織の場合の前處置法)
藤田秋治・松川男兒……(生化學) 45
14. 總ビタミン C の定量に就て(總ビタミン C 定量に於て還元せる
アスコルビン酸液の不安定性と安定化對策)
藤田秋治・沼田勇……(生化學) 48
- 會員から會員へ…… 52

第 2 號 昭和 17 年 1 月 20 日

15. 犬の體内に攝取された放射性鐵の分布 吉川春壽……(生化學) 53
16. 釀母菌のラクトフラヴィン量 笠原道夫・蒲生逸夫……(營養學) 57

17. 寛政六年五月カピタンが桂川甫周に與へた人の首の模型について
緒方富雄……………(科學史) 58
18. 絲狀菌に於ける β -Glucosidase と β -Galaktosidase との異同に就て
三輪知雄・西澤一俊・衣川秀松・三輪あや子……………(生化學) 61
19. 複合ホヤ Polycitor の一種とその出芽法に就て
丘英通……………(動物學: 發生學) 65
20. 腦炎超音波ワクチンの感染豫防實驗
荏原道夫・富田千正……………(傳染病學: 免疫學) 69
21. 超音波を應用製出せる加油培養基を以てする抗酸性菌の培養
里見三男・永井哲……………(微生物學) 71
22. 淋菌に關する研究 特に培養方法並びにアレルギー反應に就て
寺木忠……………(微生物學) 73
23. 異項環系ズルホン誘導體 (Pyridinin) の臨牀的實驗
倉田包雄……………(化學療法) 77
24. Umglycosidierung をなす酵素に就て
三輪知雄・眞船和夫・古谷貞治……………(酵素學) 80
25. 亜鉛の組織内證明法 中島實・松清哲夫……………(組織學) 85
26. 頸動脈竇と頸動脈體の神經支配
櫻澤富士雄・齋藤十六……………(病理生理學) 88
27. 肺結核都會化係數について 吉岡博人・諸岡好子……………(疫學) 92
28. 抗酸性菌就中喀痰よりする結核菌染色の一新手技に就て
里見三男・中富富士雄……………(微生物學) 98
29. 腦下垂體前葉ホルモン注射に依る飛驒斑點山椒魚の人工排精
中村定八……………(動物學: 産科學) 99
30. 骨前移植による骨成形手術を以て處置した右側下顎骨に發生せる
Osteodystrophia fibrosa localisata cystica に就て
渡邊巖……………(齒口顎科學: 外科學) 103
- 會員から會員へ…………… 108

第3號 和昭17年2月5日

31. プイオン代用一新培地に就て 箭頭正男……………(微生物學) 109
32. 硅藻 Pinnularia acoricola Hustedt の日本に於ける産地と
その生育環境 根來健一郎……………(植物學) 111
33. 超音波のマラリア原虫に及す影響に就て
荏原道夫・堀見太郎・松田鎮男・松崎次郎……………(寄生蟲學) 115

34. 蕃茄 Virus より得たる Nucleotid の化學構造に就て
田所哲太郎・齋藤恒行・高杉直幹……………(生化學) 117
35. 白鼠腦組織食鹽水エキスの Dehydrogenase 作用
田所哲太郎・齋藤恒行……………(生化學) 119
36. ブロムを用ひてするグラム染色法の考按
里見三男・宮本次郎……………(微生物學) 120
37. 白鼠の尾の相對成長に就て 清水三雄……………(形態學) 122
38. 白鼠の體重の相對成長に就て 清水三雄……………(形態學) 126
39. 猫足趾汗腺の各個形態特に貯藏管の存在に就て
高木俊藏・原田文雄……………(組織學:生理學) 128
40. 超音波に因るアミノ酸の分解に就て 笠原道夫・西澤義人……………(生化學) 132
41. 稻熱病菌の病原性に及ぼす培養温度の影響
板内吉彦・原一朗……………(植物病理學) 134
42. 妊娠中毒症の成因に關する研究 第四報 再び妊娠中毒症患者血液中の
胎盤剝離成起物質 P. L. に就て
眞柄正直・林柳新・岡本榮治……………(産科學) 138
43. モノチーテン白血病の特異性に就て 森田博道・尖戸正……………(血液學) 141
44. Arthus 現象と抗體價との關係の長期觀察
石川七郎……………(血清學:病理學) 146
45. Arthus 現象の年齢による差に就て
石川七郎……………(血清學:病理學:小兒科學) 150
46. 超音波の家蠶膿病ウイルスに及ぶ影響に就て
山樹義寛・笠原道夫・雄山平三郎・緒方誠一……………(微生物學) 154
會員から會員へ…………… 156

第 4 號 昭和 17 年 2 月 20 日

47. 凝集反應として工夫した梅毒反應
緒方富雄・佐藤中夫……………(血清學:診斷學) 157
48. 血清アルブミンの抗原性 鈴木鑑……………(血清學) 161
49. 腹腔腸間膜幹の一例 山崎正文・瀧澤正・塚原兵衛……………(解剖學) 165
50. 一地方無醫村の社會醫學的考察 岸本謙一・杉田直樹……………(民族衛生) 168
51. 纖維素原の血清學的的特異性 緒方富雄・犬塚俊章……………(血清學) 172
52. 豫防醫學上よりみた凍傷珠に凍瘡と氣象との關係に就て
村山實……………(豫防醫學:皮膚科學) 176

53. 日本流行性脳炎ウィールスに對するハタリスの感受性 小笠原一夫……………(微生物學) 179	179
54. 銅と血色素生成との關係 人工放射性同位體を用ゐたる一實驗 P. F. Hahn, 吉川春壽……………(生化學) 182	182
55. 血漿内の鐵及び銅の形について P. F. Hahn, 吉川春壽……………(生化學) 186	186
56. 胎盤腫瘍の一例に就て 岡田藤三……………(産科學: 婦人科學) 189	189
57. 神經細胞に關する二三の知見 大泉修一郎……………(組織學) 191	191
58. 超音波作用による蟾蜍蝌蚪の畸形發生に就て 笠原道夫・高島律三・雄山平三郎……………(實驗發生學) 195	195
59. ニハトリの胚芽反應の量的觀察 緒方富雄・佐々木伴子……………(血清學) 198	198
60. 普通のカメラを用ひて行ふ簡易顯微鏡寫眞撮影法に就て 青島盛……………(裝置) 202 會員から會員へ…………… 204	202 204

第 5 號 昭和 17 年 3 月 5 日

61. 吸着劑による Vitamin B ₁ の吸着及び誘出に就て 藤田秋治・沼田勇・松川男兒……………(生化學) 205	205
62. 静岡縣下賀茂温泉の硅藻類 根來健一郎……………(植物學) 211	211
63. 新たに案出せる細菌芽胞染色法に就て 里見三男・山中太木・藤本哲……………(微生物學) 216	216
64. 酸鹽基平衡が血清過敏症に及ぼす影響に關する實驗的研究 李應洌・香山隆俊……………(血清學) 218	218
65. 日本産 Trachelomonas 屬の數種 根來健一郎……………(植物學) 221	221
66. 實驗的肝癌發生に對する Vitamin K の影響 佐藤壽昌……………(腫瘍學) 225	225
67. 杏及び蘇鐵酵素に於ける β -Glucosidase の類似に就て (1) 三輪知雄・三輪あや子……………(酵素學) 229	229
68. 杏及び蘇鐵酵素に於ける β -Glucosidase の類似に就て (2) 三輪知雄・三輪あや子……………(酵素學) 232	232
69. 乳癌の自然發生に關する實驗的研究(豫報) 緒方知三郎・小暮照三……………(病理學) 235	235
70. 妊婦血液をキモリに注射することに依る早期妊娠診斷 中村定八・前島良秀……………(動物學: 産科學) 238	238
71. 頸動脈竇神經叢の除去と頸部交感神經節 櫻澤富士雄・齋藤十六……………(病理生理學) 242	242

72. 種々の起源より得た β -Glucosidase の Alcohol 性 Glucosid に
對する作用比に就て 三輪知雄・三輪あや子……………(酵素學) 245
73. トリパフラビンに依る組織性肥胖細胞顆粒の檢出
北山吉雄……………(組織學) 248
74. ハイネ・メデン氏病患者及び脊髓前角炎罹患猿糞便中に於ける
ヴィールスの證明 笠原道夫・緒方誠一・富田千正……………(傳染病學) 252
會員から會員へ…………… 256
- 第 6 號 昭和 17 年 3 月 20 日
75. 梅毒血清凝集反應における粒子の役目について
緒方富雄・佐藤中夫……………(血清學: 診斷學) 257
76. 顎骨血管腫の一例 齋藤溟・山岸一一……………(外科學: 齒口顎科學) 260
77. 凝集作用のみ強く溶血作用を殆んど呈しない抗血清
秋元壽恵夫……………(血清學) 264
78. 齒槽膿漏治療に際してのコーヒーの應用 景山博水……………(齒口顎科學) 266
79. 新見地よりみたる水晶體の特異性 松浦徹……………(血清學) 270
80. 滿洲産 Anopheles の生活環 黒川裕……………(寄生蟲學: 昆蟲學) 274
81. 細菌芽胞形成に關する考察 里見三男・藤本哲……………(微生物學) 278
82. 過敏性抗體の產生に及ぼす睾丸剔出の影響について
田代康三……………(血清學) 280
83. 下垂體及び卵巢の剔出並びに兩臟器ホルモンの併用が過敏性現象に
及ぼす影響について 根本博・丸田恒夫……………(血清學) 284
84. 自然發生乳癌の増殖に對する米糖油不飽化物の影響
永島學・田中謨巳……………(腫瘍學) 288
85. 人類上顎第二大臼齒の咬合面に出現する異常結節に就て
穗坂恒夫・三嶋昌平……………(齒口顎科學: 解剖學: 形態學) 290
86. レントゲン線照射皮膚に於ける Shwartzman 現象
内藤勝利・五島綠郎……………(放射線醫學: 血清學) 293
87. Diphenylamin, O-Tolidin α -及び β -Naphthylamin の經口的
投與實驗 金鶴權……………(病理學: 腫瘍學) 297
88. 中國人の毛髮に就て 湯器……………(組織學) 302
89. 中國人の性毛 湯器……………(組織學) 303
會員から會員へ…………… 304

第7號 昭和17年4月5日

90. 眼窩圓柱腫の一例 池田一三……………(眼科學:腫瘍學) 305
91. 血管内に注射せる淋巴球の肝臓間質への集積に就て
尾曾越文亮……………(血液學:組織學) 309
92. 季節病の見出し方に就て 増山元三郎……………(氣候醫學:統計學) 312
93. 超音波の皮膚糸狀菌(Hyphomyceten)に及ぶ影響
笠原道夫・雄山平三郎・安藤秀夫……………(皮膚科學) 315
94. 肉の代りに藥を用ふる培養基の應用
戸田忠雄・山田倫子……………(微生物學) 318
95. 尿中ウロピリン體定量法の改良
増山元三郎・鳥居敏雄……………(生化學:內科學) 320
96. 私の工夫した陣痛描記法 鈴木胖……………(産科學) 324
97. 涙嚢部に發生せる皮様囊腫及びその所謂淚囊腫との關係に就て
池田一三・久富長雄……………(眼科學) 328
98. 超音波のツベルクリンに及ぶ影響
笠原道夫・山本芳・今きぬ・早川操・西井貞子……………(結核病學) 332
99. 鹿茸より發情物質の檢出 長澤佳熊・長野茂……………(藥學) 334
100. 舊ツベルクリンより得たる精製ツベルクリン蛋白
武田德晴・渡邊末夫……………(微生物學:生化學) 336
101. 簡易な卵管通水法 矢内原啓太郎……………(婦人科學) 340
102. 結核の年齢分布に關する要因(第一報)
益子義教……………(疫學:結核病學) 342
103. 一新血清酸コンゴ赤反應 内藤勝利……………(産科學:腫瘍學) 347
- 會員から會員へ…………… 350

第8號 昭和17年4月20日

104. 寒天ゲル内の擴散反應に於ける平衡及び半透膜の生成に就て
第一報 珪酸鹽の半透膜生成 宮本璋・瀧川鐸三……………(生化學) 351
105. 循環調節の第3反射(心室反射)
福田得志・黒坪正喜……………(生理學:藥理學) 356
106. 急性膿胸の一新作成方法に就て 宮本忍……………(外科學) 351
107. 妊娠中毒症の成因に關する研究 第六報 胎盤の水溶性物質による
皮内反應に就て
眞柄正直・張克繩・林柳新・岡本榮治・謝顏氏賽霜……………(産科學) 365

108. 超音波ワクチンの経鼻免疫による脊髄前角炎感染豫防に就て
笠原道夫・緒方誠一……………(傳染病學: 免疫學) 369
109. 余のゲラチナーゼ證明方法 フォルモゲラチンメトードに就て
山中太木……………(微生物學: 酵素學) 371
110. 入乳中 Vitamin B₁ 含量と荒川反應との關係
藤田秋治……………(生化學: 小兒科學) 374
111. トラフグの Stannius 小體のインズリン含量とその檢出法に就て
長澤佳熊・近藤政治郎……………(藥學) 378
112. 植物發芽竝に生長に及ぼす三朝温泉の影響に關する二三の實驗
奥田浩三……………(植物學: 溫泉醫學) 380
113. Kryptoxanthin の定量法と植物界に於ける分布
藤田秋治……………(生化學: 營養學) 384
114. 腦炎超音波ワクチンの感染豫防實驗 (猿を使用せる實驗)
笠原道夫・緒方誠一・富田千正……………(傳染病學: 免疫學) 390
會員から會員へ…………… 392

第9號 昭和17年5月5日

115. 日本の普通の白鼠と Wistar 種の繁殖力の相違
鶴上三郎……………(營養學: 畜産學: 動物學) 393
116. 晩秋におけるハマダラカ **鈴木一男**……………(昆虫學) 395
117. 各種蔬菜及び果實の貯藏による Vitamin A, B₁, B₂, C 含有量の變化
藤田秋治……………(生化學: 營養學) 400
118. 動物由來の Salmonella. narasino に就て(屠肉と Salmonella 菌屬との關係) **山田俊雄・松井武夫**……………(獸醫學: 微生物學) 405
119. 在内地及び在内地外内地人口の普通動態率 **館稔**……………(人口問題) 409
120. 骨の Kineto-adaptation に關する實驗的研究 (右腕切斷の骨の成長に及ぼす影響) II 骨の相對的の大きさに及ぼす影響
清水三雄……………(形態學) 412
121. 松本市10ヶ年間の動態統計及死因統計
寺島正一・久保田勝……………(衛生學) 416
122. Vitamin A₁ 及び A₂ の同時測定法と魚類肝臟内の Vitamin A₁ 及び A₂ の分布 附. 牛乳及び乳製品中の Vitamin A₁ 量
藤田秋治……………(生化學: 營養學) 421
123. 微量硫酸銅の白鼠炭酸瓦斯生産量に及ぼす影響
田所哲太郎・橋本治三……………(生化學) 425

124. 余の所謂全血液微量培養法に就て **山中太木**……………(微生物學) 426
125. アドレナリンと血壓との關係について
竹廣登……………(病理生理學: 内分泌學) 428
126. 動物組織に於ける Vitamin B₁ の分布(1)
藤田秋治……………(生化學: 榮養學) 432
127. 植物組織に於ける Vitamin B₁ の分布(1)
藤田秋治……………(生化學: 榮養學) 435
- 會員から會員へ…………… 441

第 10 號 昭和 17 年 5 月 20 日

128. 核型に關する實驗研究 1 固定液, 熱, 藥品の影響
篠遠喜人・湯淺明……………(核學) 443
129. 血液種屬鑑別用沈降素 血清の新しい作り方
上野正吉・本間一夫……………(法醫學) 447
130. 肉中毒に就て **山田俊雄**……………(獸醫學: 公衆衛生) 451
131. ウサギの保存的血壓測定法について **竹廣登**……………(生理學: 裝置) 455
132. 口板穿通の機構 **新島迪夫**……………(實驗發生學: 發生學: 齒口顎科學) 460
133. 産業労働者の梅毒血清反應検査に關する統計的觀察
太田長次郎……………(梅毒學: 民族衛生) 464
134. Leishman-Donovan 小體の培養と Leptomonas 型より同小體への
 試験管内移行實驗 **大月明**……………(微生物學) 467
135. ニールブラウ加寒天培地を以てする脾脫直菌の生體染色に就て
山中太木……………(微生物學) 471
136. 婦人外陰瘙痒症より分離した酵母菌種に就て
松浦喜作……………(婦人科學) 473
137. 北滿防寒移民家屋の屋根の傾斜と日射熱量
猿田南海雄……………(衛生學: 植民衛生學) 475
138. 新たに考案せる細菌莢膜染色法に就て **山中太木**……………(微生物學) 479
139. 新たに考案せる細菌顆粒染色法に就て **山中太木**……………(微生物學) 480
140. 稻稈蠅の産卵に關する稻の品種間差異(豫報)
湯淺啓温・湖山利篤……………(昆虫學: 農學) 481
141. 鳥類血液寄生原虫の調査とホホジロに見たマイクロフィラリアに
 就て **登倉登**……………(原虫學: 寄生虫學) 485
142. 在内地外内地人人口の標準化動態率 **館稔・窪田嘉彰**……………(人口問題) 489

143. 微量鹽化亞鉛の白鼠の炭酸瓦斯生産量に及ぼす影響
田所哲太郎・橋本治三・佐々木三智夫……………(生化學) 492
144. *Cercospora* 屬菌に因る北支那の植物病害に就て (豫報)
逸見武雄……………(植物病理學) 494
會員から會員へ…………… 493
- 第 11 號 昭和 17 年 6 月 5 日
145. 側頭筋間筋 *Crista intermuscularis temporalis* (假稱)
の形成に就て 岡本規矩男・吉田貞治……………(解剖學) 501
146. 結核症に於ける帶狀泡疹 馬場篤義……………(病理學) 505
147. 超音波の結核菌に及ぼす影響に就て
笠原道夫・鈴木省三……………(結核病學) 507
148. 蝴蝶骨小翼より發生せる腦膜腫? の一例
池田一三・繁田いちゑ……………(眼科學: 腫瘍學) 509
149. 男子思春期の乳腺痛 山浦篤……………(生理學: 衛生學) 513
150. *Donaggio* 反應試薬の性質
増山元三郎・細島千代子……………(生化學: 運動醫學) 517
151. *Martius* 氏手術による膀胱腔廔の治驗 内藤勝利……………(婦人科學) 521
152. 腦脊髄液の血清學的研究 第一報告 正常腦脊髄液の血清學的構成
柴田農武夫……………(血清學: 精神醫學) 524
153. 腦脊髄液の血清學的研究 第二報告 各種腦脊髄液の血清學的構成
柴田農武夫……………(血清學: 精神醫學) 528
154. *Gymnoascaceae* による斑狀落屑性白癬
樋口謙太郎……………(皮膚科學) 532
155. 口蓋内皮細胞腫の一例 三木忠俊……………(齒口顎科學: 腫瘍學) 534
156. 女子腹部癰腫症 (*Furunculosis abdominalis feminae*) に就て
重松俊……………(皮膚科學) 538
157. 超音波作用による狂犬病毒非働化機轉に就て
笠原道夫・市川俊彦……………(微生物學) 541
158. ベラグラの際の眼症狀 西山進・三上英郎・松下和夫……………(眼科學) 543
159. 赤血球沈降速度曲線の分析 第一報 模型實驗コンゴール赤の
 CaCl_2 による沈降速度 宮本璋・三橋進……………(生化學) 547
會員から會員へ…………… 552

160. 日常食品中の Vitamin B₁, B₂ 及び C 含有量に就て
藤田秋治……………(生化学: 栄養学) 553
161. 救荒植物中の Vitamin 含有量 藤田秋治……………(生化学: 栄養学) 566
162. 醤油及び味噌中の Vitamin C の定量に就て
藤田秋治・沼田勇……………(生化学: 栄養学) 558
163. 尿の pH と Donaggio 反應
増山元三郎・細島千代子……………(生化学: 運動医学) 563
164. Donaggio 反應の微量法
増山元三郎・細島千代子……………(生化学: 運動医学) 565
165. 脳膜及び脳表層血管に関する觀察 平田覺……………(薬理学: 生理学) 567
166. Donaggio 反應濾紙法
増山元三郎・細島千代子……………(生化学: 運動医学) 570
167. Perthes 氏病罹患側と手足根骨々核の相關 飯野三郎……………(整形外科) 572
168. 所謂齒槽膿漏症の外科的療法に於ける電気メス使用の経験
渡邊謙・進藤真義……………(歯口顎科学) 577
169. 陳舊性兩側下顎前方脱臼を觀血的に整復せる症例
渡邊謙・萩野利勝……………(歯口顎科学) 581
170. Vitamin B₁ 及び C 定量上の注意事項について 藤田秋治……………(生化学) 181
171. 兎の廻腸に於けるアレルギー性反應
石川七郎……………(病理学: 外科学: 内科学) 590
172. 腺窩性扁桃腺炎の本態に関する示唆
鈴木安恒……………(耳鼻咽喉科学: 内科学) 595
173. ビタミン E が血清過敏症に及ぼす影響に関する實驗的研究
李應洌・李容勳……………(血清学) 598
174. 本邦肺結核死亡の時系列に関する統計的解析 第一報 節約變化
吉岡博人・有村義男……………(疫学: 衛生学: 統計学) 602
175. 眼の疲勞感覺到及ぼす眼鏡のプリズム作用の影響に就て
江原勇吉……………(眼科学: 生理学: 労働科学) 605
- 會員から會員へ……………609